

SPORTY FASHION

スポーティな装いで

初夏をたのしく：

福 富 芳 美



軽快な装いを楽しむシーズンをむかえました。
ハイキングや戸外の散歩には、ドレッシーなものより
スポーティな服装こそ、＼明かるく、さわやかな＼初夏
のムードにぴったりでしょう。

スポーティな服装のデザインは、だいたいブレীনな
ものが多く、生地も全体的にすこしシヤンとした感じの
ものの方がよく、うす手のウール地やデニムなどはジャ
ツ・ブラウスによいでしょう。しかしデニムの場合はお
年を召した方には不向きで、これはあくまでも若い人向
きのシヤツ・ルックに限られます。ソデは七分から長め
の半袖になさること。

また軽快なスタイル——として若い人たちにはわりと
タイトな感じのものが喜ばれていて、ワンピースなどに
もそんな傾向があります。スポーツ・ウェアとして着
る場合、シルエットはタイトでもプリーツなどで全体的
に運動量のあるものを作るといのは常識です。

ブラウスとスカートを組合わせて着られるとき、スカ

ートは＼キョロットスカート＼になさってはいかがでし
よう。これはスポーツ着やハイキング用に昔からあった
形ですが、スポーティな着心地が新鮮で、ブラウスと共
の生地で作っておかれればワンピース風にも着られ、休
日のおしゃれ着としては最高にすてきでしょう。

スラックスにシヤツ・ブラウスといったスタイルも若
い人たちにはお似合いです。さいきんスラックスには明
かるい色のや、チエック、シマなどとその種類もふえ
いろいろとスラックスをたのしんで着こなしてらっしゃ
る方が多くなりました。

ことに戸外といえば＼山＼といった感じのする神戸での
若い人たちのスポーティな装いといえば、スラックスに
シヤツブラウスで代表されるといってもよいほどこれか
らのシーズンには、よく見かけるスタイルです。無造作
に何気なくはおったジャンパー、またチエックなどの上
衣を手にした人など、その着こなしもシヤレていてすて
きです。

× × × × ×

ブレীনなデザインだからといって、アクセサリーを
たくさんつけようと思わないでください。無飾りの胸に
は一個のプローチか一連のネックレス、ペンダント、ど
れでも一つあれば十分にあなたのムードを強調してくれ
るでしょう。スーツにならあまりキラキラ光らないプロ
ーチを、またブラウス・スタイルにならシヤレたカフス
ボタン、ややドレッシーな服には細い金のチェーンに小
さい宝石のペンダントといった心づかいこそ、あなたを
いっそう美しく見せる装いとなりましょう。

×

ご存知のように今年の色、生地ともに＼やわらかい＼
といった感じのものが一つの流行です。これから夏にか
けては、うすくてすてきに見える——シヤンタン風な生地
で、色はシャーパーット・トーンで淡いうす手な色と着た
感じがややドレッシーなものが流行することでしょう。

(神戸ドレスメーカー女学院長) — 談

真珠を愛する人は
真珠の美しさを持った人

'62 年度ミス・インターナショナル世界第一位（ミス・オランダ）

神戸・三宮駅前 新聞会館内

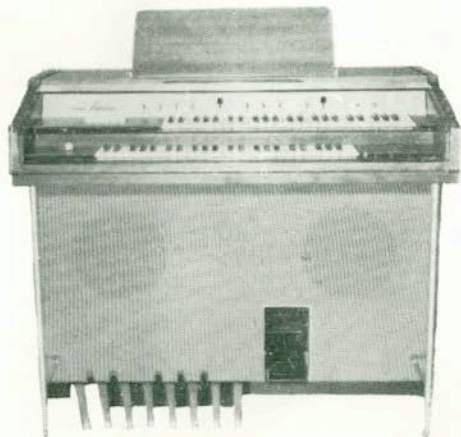
田崎真珠

TEL ②② 5646



- ご家庭に
- 職場に
- 集りに

新しい時代をつくる楽器
ヤマハエレクトーン



神戸もともち

日本楽器

元町通2丁目 TEL ③1631-2

お菓子のことなら

**壽
本
舗**

三宮店▷阪急神戸西口③0381
元町店▷元町通2丁目③1136

神戸と

ミステリー



神戸っ子の西田さんは

探偵作家の元祖

西田 神戸における推理小説は古いですね。

早川 とにかく西田先生が日本の探偵小説をお始めになったようなものですからね。

西田 いやあ(笑)大正八年に「新青年」という雑誌ができて、それが探偵小説を募集したんですよ。たった十枚の探偵小説なんですがね。いまから考えれば、とても十枚なんかではできると思わんでしようけど……

ところが私たちのように探偵小説の好きな者が、外国物のまねをする積りで書いて第一回に応募したんです。それが二等になったんです。原稿料は五円でした(笑)十枚でね。

そして続いてまた出したのが一等になったんです。こんどは一枚一円で十円でしたが、そんなことで私が探偵小説の元祖みたいになつてしまつたんですね(笑)

でも作品を書いたのはそれっ切りなんです。それ以前から翻訳をやる積りで、外国の雑誌探したりして、その中から面白いと思うものを訳したりして、その方の専門みたいになった。やはり日本の探偵小説の元祖は江戸川乱歩ですよ。

陳 だけど乱歩さんが「新青年」に出たのは先生より大分おそいでしよう。

西田 おそかったね。私の次は同じ神戸出身の横溝正史(神戸二中出身)で大正九年です。それから三年後の大正十二年に乱歩の処女

出席者

西田 政治

(日本探偵作家クラブ関西支部長)

陳 舜臣

(作家)

早川 節夫

(日本探偵作家クラブ関西支部幹事)

きく人

川上 了子

(野田高校教諭)

作「二銭銅貨」が出て世間を「アッ」と驚ろかしたんです。日本人でも探偵小説が書けるということを示したのは乱歩ですよ。とにかく日本の探偵小説の初期は翻案ものが多かったんですね。私らはマッチの火をすっただけで、創作の火をつけたのは乱歩なんです。だから彼が日本の探偵小説の元祖みたいになつてゐるんですよ。

私が乱歩と知り合つたのは彼が大阪にいた頃で、「新青年」に進出したときはまだ大阪にいました。「新青年」で相当売りに出してから東京に行ったのです。そして横溝君を「東京へこい」とひっぱつたんですよ。

川上 神戸に探偵趣味の会といつたものが出来たのには何か理由があったのですか。

早川 それはやはり西田先生や横溝さんがいらしたからでしょうね
西田 いやあ、私と他に二、三人がたえずやってたものだからね、ただそれだけでは何もそうした会が育つ要素はないんですけどね。でも原書を手に入れるのがラクだったんですわ。サラの本はよう買わないから古本屋ばかりなんですわね。

ところが古本の方が掘り出しものが多かったんですよ。船のライブラリーで備えてついていたのか、オリエンタル・ホテルの備えつけとか何かゴム印が押してありましたが、そういうものの払い下げなどの中に掘り出しものがあって、私たちはそれを翻訳して得意にしてたんですよ。戦後は翻訳権というものが出来て、原作者の許可がなければいかんとかいってますが、昔はいくらでも勝手に翻訳してなんともなかったんですけど、だからなるべく人の知らないもので面白いものを採すのに一生懸命でしたよ。

早川 イギリスの作家ピーストンをなんかを発見されたのは先生でしよ？

西田 ええ、ピーストンといったら「新青年」の初期に一時やかましかった、いまだにえば短篇で最後にオチのある、ヒチコックマガジンなどでいま流行ってますね。ああいうので割り合い面白いものが多く、それを翻訳して、一時ピーストン、ピーストンとやかましくいわれた時代があったんですよ。早川 ピーストンはあまり単行本を出してないんですけど、昔の愛んな雑誌にしか短篇を出してなかったんですよ。ですからイギリス本

国でもおそらく二流作家だったんでしよね。ピーストンはイギリス以外では日本に先に発見された作家ですね。

西田 外国で知られないでね (笑)

早川 アメリカでもクイーン・マガジンなどで再録され出したのは戦後ですからね。

西田 あれは乱歩さんが宣伝したんですよ。

陳 ピーストンにとって西田先生は恩人ですね(笑)

早川 もっとも翻訳料は払ってない、無断翻訳だから(爆笑)

陳 西田先生の翻訳はカー、ロー



(西田政治氏)

スン、クイーン、ブリンなどほとんど本格物ばかりですね。

西田 あんなのが好きですよ。

昔は奇想天外な話がうけました。

川上 日本探偵小説の草分け時代といえどどんな方たちがいらしたのですか。

陳 西田先生のととは水谷華かな

早川 先生以外に古い人は一甲賀三郎、横溝正史、小酒井不木などでしょうね。

日本の探偵小説は大正末期に勃興

して乱歩さんが書き出し甲賀三郎大下宇陀児、木々高太郎などが出たときが花でしたが、昭和の始め頃は少々沈滞気味でした。そして七、八年になって再び盛り返しそれが例の支那事変で統制され終戦後までダメになったんですよ。西田 戦争中、探偵小説は完全に押えられたからね。何しろ探偵小説という外国のもののように考えられてたからね。だいたい探偵小説の本流は英国だから。

早川 だからみんな軍事小説やスパイ小説などに逃げたんですよ。

西田 戦後は横溝君が長篇を矢次ぎ早やに書いて拍手喝さいですわ

早川 そこえ松本清張など五人男という新人が出てきたわけですよ

川上 四十年前の西田先生から陳先生にいたるまでの間に、神戸にはずい分多くの探偵小説家が出てらっしゃるのでは？

西田 それがね、出てないんですよ。横溝君と陳さん位でその間には、たいした作家は出ていないのでは？

そう、山本末太郎というのが「新青年」の初期に百枚位の中篇募集で「窓」というのを応募して当選してるね。

早川 裁判小説みたいなのが得意だったんですよ。

西田 社会派でいまの傾向からいえばよかったんだが、あの当時、実話的な作品は喜ばれなかったんですよ、話が地味だから。何しろ乱歩などのハデなあやしげな小説がはやった時代だからね。

探偵小説といえど乱歩の奇想天外な「屋根裏の散歩者」などトツビな話がないじゃないかという考え方があったからね。山本の作品

自体は本格派の立派なものだったんですがね。この人は実力もありその後小笛事件といって裁判小説ですが、実際の話を小説にして神戸新聞に連載しています。いまの高山京都市長が関係した事件でその時の調査を借りて書いたものです。とにかく横溝君と陳さんの他はかすかに光りを放っては消えして、マツチみたいなので火がともらなかつたようですね。

早川 戦前組ではいまの山本さんとか戸田巽さん位ですか。戦後は尼崎の島久平さんなどですね。陳 女性では芦屋に芦川澄子さん



(陳辨臣氏)

がいますよ。

川上 女性の推理作家が増えたのは戦後ですか。

西田 まあ、そういえるかな。

陳 読者はたしかに女の人が増えましたね。だいたい外国では推理作家といえば女性が多いですね。西田 御大のクリステイはその代表ですからね。もう七十才位だがたいした人ですね。

陳 純文学で探偵小説に貢献があったというのは谷崎潤一郎と佐藤春夫の両氏ですね。

西田 谷崎氏がいちばん探偵小説的な味のものを書いてるでしよう

探偵小説で

「神戸」を舞台にしたのは

「枯草の根」がはじめて、

陳 横溝さんの作品には、あんまり神戸を舞台にしたものはありませんね。

西田 そうですね。「広告人形」

という作品ね、あれは神戸が舞台ではないが、新開地の大きな張りボテの人形を頭からかぶってヒョコ、ヒョコ歩るいてピラをくばる。広告人形をテーマにして書いてますね。創作しかけてごく初期の作品ですがね。神戸を舞台にハッキリ書いたものはないね。

陳 代表作はたいてい疎開時代の

岡山の辺が出てきてますね。

西田 「獄門島」や「八つ墓村」

などはそうですね。

陳 横溝さんなどが神戸を舞台に書いてくれるといいのにね。

川上 陳さんが乱歩賞を受けられた「枯草の根」は、完全に神戸が

舞台ですが、長編探偵物で神戸が舞台になつたというのはこれが始めてですか。

西田 ええそれに「枯草の根」は

本格的やしね。

川上 ずいぶんがかったですね。

陳 五百枚です。

西田 あれ読んでたら、海岸通の

ビル街が出てきてるね。

川上 海岸からトア・ロード辺り

から北野も出てきますね。知つてる処が出てくるのは読んでとて

も楽しいですね。「あつ、あの通りで事件が起きたのだな」ってね

西田 横溝君の「悪魔が来りて笛

を吹く」にもすこし神戸が出てくるね、須磨や淡路などが。

川上 陳先生のは、住んでらっし

表紙のことは

田村孝之介氏のこと

田村孝之介氏は明るい感じの人だ。絵の方も全体に明るい調子で、筆致にも屈託がなく、色彩も線描もじつじつにのびのびしている戦前から、小磯良平氏と共に関西在住の代表画家として、とくに女性画の名手として知られていたが戦後から今日へかけて、田村氏の画域はうんと広くなり、内面性もいっそう深まってきた。

ヨーロッパ旅行後、モダン・アートへの視野もくつとひろがり、かつての写実的な行き方のうえに最近抽象画的手法が加わってきたことが、タブローの場合とりわけ濃く認められる。赤やコバルトやバイオレットを主調にして描かれたスペインの踊り子の諸作品は、ヨーロッパ旅行みやげといわれる以上に、いきいきとした感動とたくみなメテウに恵まれた傑作だった。油絵の上での手法の深化や多面化とは別に、挿し絵画家としての活動もなかなか活発である。現在も新聞小説や雑誌のさし絵を多くものにしていて、人物画、とくに若い女性の絵では、いかにも「田村好みらしい近代女性」の姿をいくつも新しく創造している。田村氏はまた後進を育てる面でも功績が多くとくに二紀会神戸支部の若い画家たちの指導に全力をつくしてきた。

中西勝、児玉幸雄、坂本益夫、鴨居玲、西村功氏などの有望な中堅新人が続々と生まれているのも、氏が神戸で中軸となつて同支部にたくしたおかげといえよう。

青木重雄

やる北野辺りから海岸のビル街が中心でしたが、今度はぜひ須磨、舞子などの観光地も舞台にしてくださいよ。何か突発的な事件を起してね(笑)

西田 やはり、三宮などゴチャゴチャした感じの処が舞台になりやすいだろうね。須磨、六甲などはあまり静かすぎて……

早川 六甲の外人村などはダメかな？ 修法ヶ原とかね。

川上 外人墓地辺りもね。

陳 書きたいという気は湧きますけどね。折り込むのはなかなか難かしいですよ。

推理小説は殺人などが出てきて犯罪がテーマになるんだけど、神戸を舞台にしてあんまり暗いものを書くのはいやですね。

早川 戦前の神戸は、なんとなくミステリヤスでエキゾチックでよかったんじゃないかな。

乱歩さんが随筆で書いてられたけど、元町商店街を歩いてたら看板に人を喰ったようなのがあってそれが創作「人間椅子」を書く動機になったということを書いてられましたよ。

昔の探偵小説には

恋愛はタブー

川上 ところで、推理ブームの起きた原因はどういうところにあるんでしょうか。

西田 四十年前、三十年前でも乱歩あたりが探偵小説を盛んにしようとするんですがねダメだったんですよ。それが最近になってブームになったというのは、どういう原因かな？

早川 天城一にいわせると六三制教育のおかげだというんですよ。

つまり自分でものを考えるようになったからだってね。

陳 また一説によれば婦人の読者層が増えたということですね。ヒマが出来たということですね。よくいわれるんですよ。「推理小説の読者は半分以上は婦人だから、そういうことを頭に入れて書け」とね。

西田 それはいま松本清張の作品などが多いからでは……。翻訳ものではガードナの作品が多いでしょう。ガードナは女の人のファンが多いよ。



(川上子了さん)

早川 ガードナの原書は、よく読んでる人が多いですね。

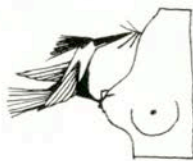
川上 私たちの仲間でも推理小説ファンって多いのに驚きますわ。

日本の推理作家でいま一番活躍してられるのは、やはり松本清張さんでしょうね。

陳 松本さんですね。量的には笹沢保さんが一番多いんじゃないかな、千五百枚とかいってたから……。佐野洋さんは最近、仕事をセーブしてるとか言ってましたけどね。

川上 松本清張さんの作品には、かなり恋愛問題がからんできてますわね。だから女性に受けてるんじゃないかしら。

びんくこーなー



「ワトソ君、雨が降り出したな」「雨が降り出したって？へえ君は部屋の中にいて、よく外で雨が降っているのがわかるねえ」「窓ガラスをこじ、雨だれが流れ落ちてるじやないか」「あつ、ほんとだ、ウーム」これじゃ、感心する方がバカというものです。いくらシャーロック・ホームズでもこんな推理はいったけません。

あるホームズ・ファンのお医者さまがありました。患者の家に往診に行くたびに、患者から何も聞かれないうちに「あなたは梨を食べたろう。リンゴを食べ過ぎたねだから病気がよくなるのだ」というのが、奇妙に当たるので患者も恐れいつてしまいます。助手くんも感心して「先生、どうしてわかるんです」「わけはないさ、患者の家へ行ったらまず床の上を見ることだ。そしてもしリンゴや梨のタネや皮が落ちていたら、そういういえないんだよ」なかなかの推理ですね。ところで、どんなダンナ様でも奥様の名推理にかかったら、たちまち化けの皮がはがれてしまいます。ワイシャツにも口紅はついていないし、変なジワはないし；きょうこそは、完全犯罪だ」と安心して帰宅したのですが、それでもいけません。「アナータツ、どうしてパンツを裏返しにはいているんですか！」

西田 そうですね。
陳 昔の恋愛小説は恋愛はタブー
になってたんですよ。

早川 そういってますが、昔のものでも案外入ってますよ。オースチン、フリーマンや、クロフツもたいてい恋愛問題が入ってましたよ。

西田 それでも大恋愛が主になつて
るものはいくつかないよ。

川上 恋愛がタブーになつてたとい
うのはどうしてですか。

西田 ヴァン・ダインやノックス
あたりが、探偵小説にはこういう



(早川節夫氏)

ものを使ってはいけない—という
憲法みたいなものをこしらえたん
です。その中に「恋愛を主にし
たようなものはいけない」とある
んですよ。

川上 それは倫理的な問題で？
陳 そうでなく、頭脳ゲームとし
てナゾを解くという過程において
恋愛問題が入ってくると目ざわり
で邪魔になるというんですね。

川上 探偵小説は、やはり最後が
オチなんでしょね。

陳 本格物だとね。でも倒叙物だと
最初から犯人がわかっていて、
その犯人がどういう風にアリバイ
を作ったか—というようになことを
追っていくのもありますしね。い

ろんな型がありますよ。

西田 倒叙物でも、フリーマンの
倒叙小説などは、犯罪編というの
が始めにあつて、それから探偵編
と二つにわかれてるんですね。

まあ、いまの傾向としては、人
が死んでいて、それをどういう原
因で、誰れが殺したかということ
を刻明に書くのが多いですね。事
件が奇々怪々でなくともね。

昔は不思議な事件とか「さてこ
れはどうなるんだろう」という事
件でないと探偵小説として面白味
がなかったんですが—。

川上 陳先生は本格派探偵作家だ
ということ何かで読みましたか
本格派といひますと…。

陳 僕自身そういうレッテルをは
られるのは好まないんですけどね
日本で本格派はまず横溝正史さん
が第一人者で、あとは鮎川哲也、
笹沢佐保氏じゃない？

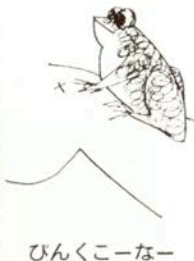
早川 もうそのあとに続くのは陳
舜臣ですよ。
陳 本格派はトリックで面白さを
出すんですね。データを並べてナ
ゾ解きです。

早川 いちばん始めに不可思議な
ナゾがあつて、それを途中で徐々
に推理して解いて行き、最後に意
外な解決がないといけない。

これが本格派の探偵小説なんで
す。ところが近頃の作品には、始
めに不可思議なナゾがなく、時
には中途の推理もない。追いかけて
つこやベッド・シーンでね。そし
て最後に意外な解決もないのが多
いんですね。犯人がつかまっても
こういう作品は僕らにとつては
つまらないですよ。

川上 読者をウロウロさせなきゃ
面白くないですわね。

(別館牡丹園)



ひんくこーなー

きようは論語の講義をいたしま
しよ。さあ、皆さん、先生とい
つしよに声を出して読んでくださ
い。「子のたまわく、われ十五有に
して学に志し、三十にして立ち、
四十にして惑わず、五十にして天
命を知り、六十にして心に従う(し
たが)い、七十にして心に従う(し
た)。」すると、前の方にいたニキビ
面のいやなガキがこういいました
ね。「先生、孔子サマは若いとき
はインポだったんですか。三十に
して「立つ」というのは、ずいぶ
んおそいじやありませんか。ボク
らはもう立っている。」

これで講義はメチャメチャにな
りました。それから主客顛倒、
先生の方がもっぱらその悪童の有
益な講義を拝聴するハメになりま
した。たとえば「君子危うきに近
寄らず」は実は「君子アナ無きに
近寄らず」というのが本当だそう
で、アナさえあれば君子もこれを
拒むいわれはないといったメイ論
もあれば「義を見てせざれば勇
なきなり」も「毛を見てせざれば勇
なきなり」の間違ひではないかと
いった調子です。

この悪童「桃李ものいわざれど
下自ら蹊をなす」というコトワザ
を読んでもニヤリニヤリ。どうや
らこれも蹊を「毛」と読んだらし
い。いやはや、小人は養いがたし
孔子様が嘆かれたのもムリではな
い。(T)

神戸と私と探偵小説

島久平



私はハイティーン時代に、神戸に半年ばかり住んだことがあり、神戸には甘い悲しい思い出がある。さらに神戸が私にとって忘れられぬ土地となったのは、神戸で生れた探偵小説のグループに私が入会した時である。

まだ終戦直後の物資不足の時代で、私たち人民どもは会えばヤミの話や喰い物のことが先ず話題になった時代である。当時の雑誌は裏の活字が読めるようなザラ紙で現在の週刊誌よりも薄い気がした。印刷してあれば何でも売れたという時代でターミナルの盛り場ではヤミ屋が定価にプレミアムをつけて売っていた。その中に探偵小説専門の雑誌がいくつかあった。

私が「宝石」の誌名を知ったのもこの時である。子供のころから探偵小説にとりつかれた私はこれらの薄っぺらな探偵小説誌を買ひあさった。そのころの私は町の一ファンに過ぎず探偵小説界の誰も知らず、同好者の友人さえ持っていないかった。その私がどうして神戸に探偵小説愛好者の集りがあることを知ったか、私の記憶はうすれているが、これらの探偵小説誌の中に集会の記事があったと思う。日時と場所、そして来会歓迎とあったのに勇気を出して私は神戸へ出かけた。

会場は居留地のビルの中だった。ビルの名も覚えていないが、少くとも第二回目以後、しばらくの間はそうだ

ったと思う。私はこの時に始めて、かねて名前だけは知っていた西田政治先生や故人になられた山本平太郎先生にお目にかかった。詩人の杉山平一先生が深い探偵小説の愛好者であることを知ったのもこの時である。この時の集りで西田先生が会長に山本先生が副会長と決められた。会の運営や会場の世話など、実務の原動力となったのは矢作京一氏だった。香住春吾氏も第一回の集会に来ていたはずであるが、会場の隅に小さくなっていた私は香住氏を認識するに至らなかった。だが香住氏の名をイヤでも知らされるのに時間はかからなかった。何回目の集りの時からであったか、出席者は作品を携行すべしという厄介な規定ができた。枚数に制限はなかったから、大長篇を持参してもいいはずであるが、そういう特志家は少く、一枚か二枚のコントでごまかして、これを入場券と称して笑いあった記憶がある。この時に香住氏の作品はすでに私たち素人の作品からケタがはずれていて矢作氏と私は香住氏の作品の中に首を振って感心したものである。天城一氏が何回目の集会から登場してきたかもハッキリ覚えてないが、すでに「不思議な国の犯罪」や「高天原の犯罪」などを発表していた天城氏は私の眼からは大先輩であった。会場が転々として、ついに会下山町の西田先生のお宅に落ちついた。私たちは会下山アルプスと称して月に一回の集会に息を切らして会下山アルプスを登ったものである。

読むだけで満足できずに、とうとう私は探偵小説を書き出したが、これは西田先生のおかげである。杉山先生にもたいへんお世話になった。しがないサラリーマンの私が作家生活オンリーを決心したのは「みだれ街道」を書いた時だが、こんな小説を書けるようになったのは、神戸の探偵クラブに入会したためである。

山が近く海が近くエキゾチックなミナト神戸は、訪れるたびに私を魅するけれど、その上に私を作家にみちびいてくれた忘れられない神戸なのである。

(作家)

あなたも出来ます
“カメラの不思議”

5月1日(火)~6日(日)
 5階催場

〔制作〕甲南カメラ研究所
 西村雅貫
 西村写真研究所
 西村雅司

〔後援〕アサヒカメラ

展



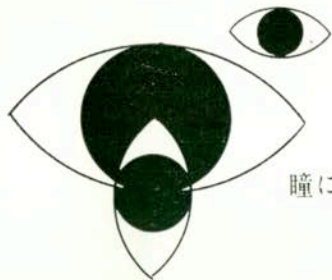
神戸店



舶来婦人服地卸小売
 高級婦人服地

マルゼン

神戸市生田区三宮町1丁目(生田筋)
 TEL. ③ 0212・5454



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

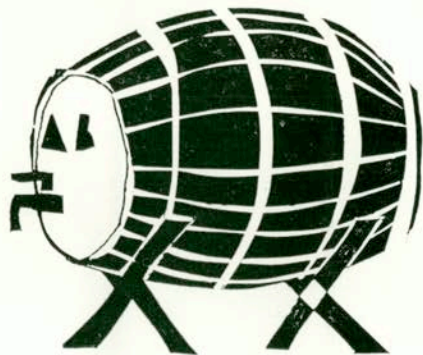
神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361



マキシン 美容室

経営 スズ・ホソノ

三宮神社前 TEL③4917



世界の洋酒の店

ABUハチ

元町2丁目 TEL 3 2798





マダム コンハンワ

シルバームーン

「シルバームーン」という名のバーが神戸に二軒ある。その一軒はすでに「神戸っ子」に紹介済みである。新しくここに登場をねがった「シルバームーン」は、生田神社のすぐ西側の筋にあり、マダムと、うら若い女の子二人という、いたってひっそりとした雰囲気のレストランバーである。ママの「ふみ」さんは、物腰が静かで、言葉づかいの、とてもやわらかで綺麗な人である。生国はどこかなあ、と思って聞いて見ると生粋の「神戸っ子」だという。絵をよくし、書・生花・茶の湯ETC、を身につけ、内なる粧いをつねに忘れな人である。ナチュラルな、態度でいて、向い合っていると、次第に心が安まり、和やかになり、陶然となるような女がいるものだがまさしく、ママの「ふみ」さんはそのような女性だ。情感の豊かさによるものだろう。したがって客筋は、アーチスト、プロフェッサー、ドクターたちの、いわゆる先生族が、ひとときの憩を求めて止木に腰を下しているのが多く見られる。

すべてに、つつましやかに見える彼女は、また、休日には愛車ヒルマンを駆って、ハンドルさばきの鮮やかさを見せる、「メドラー」であることも披露しておく。

(K)